第4課

聖書は神の言葉か

私の好きな教授であるドナルド・F・ジョンズ博士は啓示について本を書き，神観念に反対するヒューマニズムの偏見は聖書を他の本と同一視するに至っていると説明しています（ジョンズ P.19)。ひとたび神の概念が受け入れられると，啓示の概念も受け入れることができます。

第1に，啓示の「可能性」が存在するということです。宇宙を創造することができる神は，同時にご自分を人間に明らかにできる力を持っているはずです。

第2に，啓示の「蓋然性」が存在します。被造物に明示されている神の性格は，啓示を予想させます。創造者なる神は，彼を理解できる被造物におそらくご自分を知らせたいと願うでしょう。

第3に，啓示の「願望性」があります。あらゆる時代，あらゆる場所の人々は，ある種の超自然的啓示を望んできました。あらゆる文化には常に1つの宗教がつきものです。神は，神によって満たされないような願望をもった人間を創造したとは思われません。

第4に，啓示の「必要性」があります。良心と理性だけでも罪の自覚を与えるのに十分ですが，罪から救われるためには啓示が必要です。ある種の啓示された救いの計画だけが，人は罪の刑罰と力から救われうるということを保証できるのです。

私たちはすでに，神の御子イエス・キリストにおける神の自己啓示を見てきました。しかし，イエスの生涯と教えを私たちに告げる資料や文献はどこにあるのでしょうか。聖書がキリストとキリスト教に関する私たちの資料であり，案内書です。私たちはこの本を調べて，その背景と信頼性について知らなければなりません。それがこの課の主題です。

アウトライン

■聖書はどこから来たか
■聖書の困難性
■聖書の権威
■聖書を理解する方法
■挑戦

考えるための問題

1．ラブストーリーと科学の教科書の主な違いは何ですか。
2．誤りのない本がつくられるいくつかの重要な要素は何ですか。
3．現代の科学的探究と発見は，誤りのない聖書の概念を助けますか。それとも傷つけますか。
4．あなたは聖書の中にどのような誤りがあると一番考えますか。
5．聖書の権威を考えるとき，どのように論理は用いられますか。
6．あなたはどのようにして聖書を個人的に徹底的に研究しますか。
7．あなたは新約聖書のある箇所を選んで真剣に学ぼうとしていますか。
8．あなたは真理をどこで発見しても、その真理を喜んで受け入れようとしていますか。

用語の意味

対型——ある型と一致するもの，あるいはその前ぶれとなっているもの。

黙示録——新約聖書最後の書巻。世界の究極的運命の預言に関係している。

アラム語——紀元前9世紀から知られ，バビロン捕囚以後のユダヤ人を含めた種々の非アラム人によって，共通語として採用されたセム語。

高等批評——聖書の文学的歴史と著者の目的と意味を決定する，聖書文献研究。

ヒューマニズム——理性による自己完成の能力を人間が持つことを断言し，しばしば超自然を拒絶する哲学。

無誤性——誤りのないこと。無謬性。

預言——神の意志と目的の宣言。

予型論——キリスト教時代の物事は旧約聖書の物事によって象徴され，予表されているという教理。

型——これから生起しようとしている事を表徴しているもの。

学課の展開

数年前，私は大きな大学で人類学の教授に会いました。彼は第3章で述べたような意味で，すなわちイエス・キリストとの人格的関係によってクリスチャンとなったばかりの人でした。彼は人類学の科学的規範と，彼の新しい信仰とを調和させようとしているところでした。

私たちは人類の起源と五書の著書（旧的聖書の最初の5巻）について，創世記の最初の数章を語り合いました。少しがっかりして，彼は言いました。「モーセがもう少し，くわしく人間の起源について語ってくれたらよかったのに」。

同じような切望は，聖書について多く語られてきました。まず最初に，聖書は特別な本であり，きわめて特殊な目的をもって書かれたものであることを認識する必要があります。聖書は法廷や実験室のために書かれたのではありません。わずかの手がかりしかない人間が，つかみどころのない神を捜し出そうとしているような推理小説ではありません。

聖書は，神と人間が愛と理解をもって1つになるという愛の物語であり，歴史的記事である，と言えば最もふさわしいでしょう。聖書は，神の実在と人格を前提としています。聖書は議論の弾薬を与えるため，論点を証明するため，あるいは単に他の宗教体系に別の「聖なる本」を加えるために書かれたものでありません。

英国聖公会牧師のミカエル・グリーンがあげた以下の聖書の特別な目的は傾聴に価します。

聖書は科学の本ではない。それは人間と人間，人間と宇宙，人間と神との

トータルな関係について語っている本である。聖書が科学的分野に立ち入っている場合，たとえば，太陽は「昇る」と語り，天は「上にある」といったごく普通の日常語で聖書は語っている。人間や宗教が，聖書の特定の解釈を土台に，物質の世界について信じていることを科学者におしつけることはゆるされない。反対に，聖書は神が人間を自然を治める存在としてつくられたこと，さらに宇宙において，創造者の道を探求する存在としてつくられたことを信じるように私たちを励ましている（グリーン P.43）。

聖書はどこから来たか

私たちはふつう，聖書を旧約と新約の２つの部分をもった１冊の本と考えます。聖書は小さな多くの本を編集したもの，寄せ集めたものと言っても間違っていません。聖書は「生きた書物」，一種の霊的宝庫の百科辞典です。聖書には「統一性」と「多様性」があります。このこと自体，超自然的著者を指し示しています。聖書に関して以下の６つの面を簡単に見ていきましょう（この課の全体は，これらの主題の１つ１つにあらわれます）。

時間

聖書の記述と編集には，およそ1600年間が費やされました。モーセは B.C. 1500年頃始めました。使徒ヨハネは聖書の最後の本（場所と時間の流れから最後）を A.D. 100年頃書きました。長い年月がかかったため，著者たちが相互に協力して均整のとれた作品に仕上げる余地はありません。にもかかわらず，聖書が完全に統一されているのは，このような完全で優れた作品を生み出すのに神の絶えざる影響があったことのしるしです。

著者

聖書の記述には，40人ほどの人たちが参画しました。これらの著者たちは，人生のあらゆる分野から来た人たちです。その中には，牧者（アモス），賢人（ソロモン），王（ダビデ），農夫（ミカ），漁師（ペテロ），医者（ルカ），学者（パウロ），政治家（ダニエル），取税人（マタイ），祭司（イザヤ）たちがいました。聖書記述に長い時間がかかったように，著者たちの背景，教育，言語，経験も多種多様であることに気がつかれるでしょう。超自然的な導きがなければ，このような多様なグループの合作で統一のとれた１つの作品など，とても完成させることはできません。

言語

記録された神のメッセージを伝達するのに，少なくとも３つの言語が用いられました。ヘブル語が旧約聖書の主な言語でした。新約聖書の言語は主にギリシャ語でした。第１世記において，ギリシャ語は古代世界の国際語でした。アラム語も旧約，新約の両方にいくらか用いられました。それはおよそ200年間（B.C. 500-300）の聖書世界の主な言語でした。聖書を書いた人たちは，当時，最も一般的に語られ，理解されていた言葉を使ったのです。特別に神に啓示された言葉とか，専門用語が使われたのではありませんでした。

文学形式

聖書には多くの文学形式，スタイルがとられています。いろいろな種類の律法――民法，刑法，道徳法，儀式法などがあります。その他に，詩歌，歴史，たとえと比喩，哲学，伝記，私信，教理，回想録，日記があり，預言と黙示文学という明確な聖書形態もあります。

場所

聖書の実際上の記述場所は多くあげられています。著者が行動をとった場所とほぼ同じ場所が多くとられました。たとえば，モーセはシナイ半島の荒野で書き，使徒パウロはローマの獄中で手紙を書き，ダビデはパレスチナの丘陵で詩篇を歌い，ヨハネは小アジア（現在はトルコとして知られている）沖のパトモスの小島から書き送り，ダニエルはバビロンで捕われの身のときに未来のビジョンを見，イザヤはエルサレムの聖なる都で預言しています。聖書は古代地中海地域と3つの大陸，アジア，アフリカ，ヨーロッパの多くの国で書かれました。

テーマ

聖書は人間に共通の感情，情緒，問題，関心事のいっさいを含む豊かなテーマを持っています。私たちはすでに，聖書は「人間と人間，人間と宇宙，人間と神とのトータルな関係について語っている本である」というミカエル・グリーンの言葉を見てきました。(グリーン P43)。これはその通りですから，人は以下のような多様なトピックスを見いだすでしょう。系図，倫理，健康のルール（肉体的精神的），出産のアドバイス，地理，歴史，リーダーシップの原則，戦争と戦略，友情，祈り。およそ人間にとって興味があり大切だと考えられるほぼすべてのことが，直接的でない場合は，関接的にとりあげられています。人生の大きな問題の大部分があげられ論じられています。

しかも聖書は見事に「調和しています」。このことは，聖書は霊感されていることを認めなければ，説明がつきません。聖書で「霊感されている」と訳されている言葉（第2テモテ3：16）は，直訳すると「神が息を吹き込む」を意味するギリシャ語の「セオプニュストス」です。すなわち，霊感はその中に神性の本質を有し，霊感そのものに命と意味を与えている，ということです。この「神が息を吹き込まれた」という特質は，聖書を何百年を通じて，また多く

の言葉に翻訳された聖書訳を通じて，すべての重大な誤りや欠点から効果的に守ってきました。

聖書の困難性

今日非常に一般的な意見として，聖書には多くの誤り，くい違い，矛盾，誇張，神話があると言われています。ある科学上の発見が解釈され，破壊的な批評の影響力もあって，多くの人は，聖書を信頼する必要はないし，信頼することはできない，と思いこむようになりました。私は，聖書のテキストと部分的にその内容はいくつかの問題を示していることを，率直に認めます。しかし，大部分において，これらの問題はごく少さいもので，聖書の真理と神的性格とは無関係のものです。

フランスの学者，ルネ・パーシュは聖書の困難性というこの問題を論じました。以下の指摘は彼の解説と研究に基づいています（パーシュ P.141-158）。

第１に，想像上の困難性があります。いわゆる聖書中の「解決できない問題」が大きく誇張されてきました。ふつうこれらは表面的なもので，批評家側の研究と思想の重大な欠如をあらわしているものにすぎません。「どこでカインは妻を得たか」とか，「どうやって小さなのどをしたくじらがヨナを丸のみにできたのか」といった質問はこのレベルの問題の例です。[a]

第２に，今以上の完全な情報が将来与えられて解決される外見上の困難性があります。今日の知識を調和していないように見えるからといって，そのことだけで聖書に誤りがあると非難することは重大な誤りです。

たとえば，１世紀前，多くの学者は聖書の「歴史的不正確さ」を非難しました。しかし聖書考古学はこの種の多くの反対を組織的に除去してきました。長い間，旧約聖書に多く記されているヒッタイト人は歴史家から大きな疑いを

もって扱われました。これらの古代人は聖書に記されているだけで，他のいかなる古代の資料にも出てきませんでした。そこで，聖書は誤っているし，これらの人々は実在しなかったと思われました。しかしながら，1906年に始まったトルコのボガズコイの発掘場所は，古代ヒッタイト帝国の首都の遺跡であったことが証明されたのです。

さらに，現代の精神医学は，聖書が何世紀も前にほのめかした人間の人格（パーソナリティ）についていろいろ発見し始めています。高名な心理学者O・ホバート・モーレーは，現代の心理学の概念を証明するのにイエスの言葉に言及しています。彼は，「人の罪が屋根の上から公言され，叫ばれるという概念はルカの書巻から来ている[b]」と言っています。それから，ルカを引用して，モーレー教授は言葉を続けています。

「この聖句は，《神経症》の核を構成している罪責は，少なくとも2，3人の人にそれが前もって言い表わされ，意識的に故意に償われていなければ，意に反して《徴候的に》認められる，という事実のすばらしい認識を示している」（モーレー P.96）。

これと他の例に基づいて，モーレー博士はイエス・キリストが「きわめて鋭敏な（臨床医）」であった，と結論しています。（同 P.97）。

第3に，実際よりも見かけ上の困難がいくつかあります。注意深く研究してみると，あまりにもしばしば矛盾しているかに見える聖書の箇所は，実は補足的なものであることが判明します。なぜならば，パーシュが言っているように，

「2つのいかなる記述をも調和させることのできる方法を与える解決は，それらの記述が同一の，あるいは別々の著者に見いだされても，不正確か誤謬の仮定より望ましい，というのが歴史科学の第1原則である。はっきり認められて

いることだが，それ以外の根拠を土台にして行動することは，誤りを証明することではなく，仮定することである」（パーシュ P.221）。

たとえば，創世記には１章と２章に２つの相反する創造の記事があると非難されてきました。言葉が違う，思想形態が異なる，２つの違った神概念が提示されている，とある学者は主張します。

しかし，よく見てみると，問題と思えた箇所は実は「目的」の違いのためであることがわかります。２つの章の目的は別々です。だから，少し違ったスタイルの言語を使っても許されるのです。創世記１章は，宇宙と，自然の一部としての人間を含めたそこに住むものたちの創造記事です。しかし，創世記２章は，人間の環境とか従順のテスト，エバの創造の詳細といったさらにくわしいことをのせています。こうして，創世記２章の主な目的は，堕落に至る物事の性質を記述することにありました。第１章は，単に神の創造行為を記録したにすぎません。２つの章は矛盾しているのでも，単に反復しているのでもありません（フリーに基づく P.12—15，29—31）。

さらに，実際そのような目的で書かれなかったとしたら，創世記の著者がこの２つの記事をわざわざ並べるのは愚かなことであったでしょう。ここでの誤りは批評家の判断のうちにあるもので，聖書そのものの中にあるものではありません。

第４に，確かにまだ聖書学者が完全に満足のいく解答を見いだしていない問題があります。さいわいに，その数はわずかで，重要でないものばかりです。たとえば，別個の古代写本間にいくつかの違いがあります。すばらしいことに，これらの違いの数はわずかで，全体のメッセージにとって重要でないものばかりです。にもかかわらず，聖書本文批評は絶えずその異本と取り組んで，聖書が正確に何と言っているかを発見しようとしています。

印刷技術が発明される以前の時代には，筆記者，写本家によって犯された誤りはわずかでした。その誤りはふつうたったの一文字，一言語であるとか，時には聖書の一句ないしは短いテキストに関係していました。しかしここでも，このような誤りの影響力は小さなものです。

もう１つの問題は，ヘブル語，アラム語，ギリシャ語テキストに見られる「正確な意味のニュアンス」を決めることは必ずしもできることではない，という点です。そうすると，本来用いられたはずの最も明確な言葉から離れた言葉で翻訳される場合もあるかもしれません。ある箇所では，「正確な年代や出来事の連続」は決定しにくいことも確かです。しかしながら，このような困難性は，聖書の偉大な教理的テーマを左右するものではありません。

写本過程の中でわずかの誤りしか見いだされないということは，聖書の神的起源と保持のもう１つのしるしです。聖書記述のための長い年月や文化や著者の多様性，提示されている主題の中広さを考えると，このことは特筆すべきことです。それ以上にすばらしいことは，ほぼ2,000年間の教会歴史の中で聖書は何回となく異なる言語に翻訳され，多くの場合１つの言語に翻訳されてきた点です。それほど世界的に配布され，取り扱われてきたにもかかわらず，聖書は本質的には同じであり続けました。

聖書の権威[c]

英国の偉大な学者，Ｃ・Ｈ・ドッド[d]は，聖書はキリスト教によって，宗教文献集か礼拝式文以上に見なされてきた，と言いました。「聖書は神から出た，従って誤りのない信仰と道徳上の至高の教理的権威と見なされてきた。歴史的キリスト教は啓示の宗教である」（ドッドP.８）。これは次のことを意味します。「キリスト教の究極的真理は，人間の理性だけでは発見できない。神の言葉の真実性を立証する聖霊による神の介入がなくてはならない。」これは18世紀までのキリスト教のまったく疑問の余地のない立場でした。その時以来，聖

書の権威は，「破壊批評」ないしは「否定的批評」とか呼ばれるヨーロッパ大陸の運動によって，激しい攻撃を受けてきました。聖書に代わって人間性を権威の座にすえようとする多くの本が書かれました。キリスト教社会は，聖書を敬い，聖書を正しく位置づける歴史的キリスト教の立場を破壊しようとした神学者たちから，痛めつけられてきました。

にもかかわらず，大多数のキリスト教信者と共に，私は聖書に対する自己の確信と，私はなお聖書に信頼できるということを再確信します。何年にもわたって聖書を攻撃してきた人たちは，聖書の立場を強めたにすぎませんでした。彼らは聖書のメッセージや信頼性を破壊することはできなかったのです。

聖書の無誤性を確立するには3つの方法が考えられます。

告白的方法

告白的方法とは，聖書は信仰によってのみ神の言葉と告白されるというものです。そこには，理性は理性以上のものを証明する際，用いることはできないことを理由に，理性的弁護は何ら与えられていません。この良い点は，そのようなアプローチが聖書研究の現代の科学的手段を活用することができ，なおかつ根底にある聖書への確信を放棄することがないということです。もちろん，この方法はすべての人を満足させるわけではありませんが，「信仰に傾いている」人にとっては有益な方法です。もっと疑問をもっている人にとっては，ものたりない方法です。

前提的方法

前提的方法は次のような前提に始まります。父・子・聖霊の三位一体の神は聖書の中で絶対的権威をもって人間に語る，という前提です。こうして聖書は自己証明的となります。論証の方法は以下のような手続きをとります。

前提A：聖書は神の誤りのない言葉である。

前提B：聖書は聖書自体の無謬性を断言する。

前提C：聖書の自己断言は誤りのない断言である。

結論：聖書は神の誤りのない言葉である。

おわかりのように，結論は最初の前提ではっきり述べられています。これは論理学で言う「循環論法」です。なぜならそれは，「証明すべき論点そのものを自明の理とみなして論ずる」からです。聖書は，そう主張しているから聖書の権威を断言する，さらにそれは霊感されているからその主張を信じるということは，表面的にはとても良い論拠に見えません。しかし，私たちはこのような手続きをとることでまったく論理学の境界線内にいることになります。

聖書はそれ自体で神の霊感を主張しているという断言をもって始めることは，完全に許されることです。演繹的論法の過程は，結論の真理は前提の真理次第であることを要求します。聖書はくりかえし，聖書が正に神の意図された人間への語りかけである，と断言しています。事実，旧約聖書だけで，3,800回以上も，それは「神の言葉」であると言い表われています。

古典的方法

古典的方法は「内的」「外的」証拠を問題にします。それは，聖書は一般的に信頼できることを知ることができるという前提に始まり，聖書は真に誤りがない，と結論します。

以下の論証が展開されます。

前提A：聖書は確実で信頼しうる文書である。

前提B：この信頼しうる文書に基づいて，私たちはイエス・キリストが神の御子であると信じるに十分な証拠を持っている。

前提C：神の御子であるイエス・キリストは誤りのない権威である。

前提D：イエス・キリストは，聖書が神の言葉そのものであることを教える。

前提E：御言葉は神から来るものであるから，神はまったく信頼しうる存在である故に，聖書はまったく信頼しうるものである。

結論：誤りのない権威としてのイエス・キリストに基づいて，クリスチャンは聖書を信頼しうる誤りのないものと信じる。

古典的方法は循環論法を用いていないことに注意して下さい。各前提には誤りうる理性的被造物による帰納法と演繹法との両方の論証が入っています。それには，前提とされる仮定や主観的な「信仰の飛躍」が含まれていません。それは，論理的推論と同時に，注意深い歴史的検証を問題にしています。私たちは歴史的日付，聖書文書，ナザレのイエスの生涯を持っています。この論議はイエス・キリストの完全性に基づいています（第3課の主題）。

19世紀のドイツ神学者，マルチン・ケーラーはこのように表現しました。「私たちは聖書を信じるが故にキリストを信じるのではない。キリストを信じるが故に聖書を信じるのである」（モンゴメリー P.247）[e]

メソジストの創始者ジョン・ウエスレイは聖書の権威を興味深く論じました。彼は，聖書は3種類の作者のどれかによる創作であるにちがいない，すなわち善良な人間（あるいは天使）か，悪人（悪魔）か，神か，と言いました。善良な人間か天使は聖書を創作することはできなかったでしょう。なぜなら，

彼らは聖書が創作であるのに，主はこのように言われた，などと言って，書くたびにいつも嘘をいって本をつくることはしなかっただろうし，またできなかったであろうからです。悪人か悪魔も聖書を創作できなかったでしょう。なぜなら彼らは，あらゆる義務を命じ，罪を禁じ，悪行をさばいている本を書くことはできないからです。従って結論は，聖書は事実それが主張している通り，神の導きと霊感の下で書かれたにちがいないことが明らかです。

聖書を理解する方法

聖書は信頼しうる神の言葉であり，その教えは真理と直接一致するから，聖書は特別な方法で読むべきであることが結論されます。私たちは聖書を新聞やシェイクスピアや科学雑誌を読むように読んではなりません。聖書は注意深く，よく考えながら，神を礼拝する気持ちで読まなければなりません。

私たちは先入観に従って聖書を解釈したり理解しないように注意しなければなりません。私たち自身の個人的偏見を聖書理解にとり入れて，聖書を私たち自身のライフスタイルに合わせ，私たちの信じたいことや以前教えられたことに合わせてしまうことはいともたやすいことです。しかし，もしそうするなら，私たちは誤って聖書を用いることになり，その効果を破壊してしまいます。聖書が私たちに影響を及ぼし，私たちの考え方や個人のライフスタイルを左右するようにさせましょう。聖書の啓示の目的，目標は単に資料の山からは見いだせないのです。人格との出会いの中でつかむのです。人となられた神，イエス・キリストの人格は聖書に伝達されています。彼は聖書の主題に意味と深みを与えます。

新約聖書だけがイエスについて直接語っていることは確かですが，旧約聖書もキリストの来臨を語りました。このようにして，イエスは聖書を貫く「黄金

の糸」（テーマ）であり，聖書に連続性と目的を与えています。旧約と新約の関係を示した下の図を見て下さい。

〔旧　　約〕	〔新　　約〕
神に始まる。	キリストに始まる
モーセと預言者	キリストと使徒
内的原則を発展させる外的形式	外的形式を発展させる内的原則
旧約に包みこまれた新約	新約に開示された旧約
予型と預言	対型と成就
約束	実現
「あなたはどこにいるか」で始まる（人間――創世記３：９）	「彼はどこにいるか」で始まる（キリスト――マタイ２：２）

旧約と新約は２人の人がさおでぶどうの大きなかたまりを運ぶようなものです。前方の人（旧約）は荷をかつぎながら，ぶどうをちらっと見て進みます。後方の人（新約）は前方の人と自分たちのものであるすばらしい実を全部見ています。聖書のテーマである「あがない」は旧約聖書に示され，福音書で成就し，手紙と黙示録で適用され，完成されています。

聖書を理解する原則は，簡単に言えば３つの頭文字で要約できます。それは聖書解釈のＡＢＣと呼ぶことができるでしょう。accuracy（正確），background（背景），common sense（常識）です。

正確

人物，場所，出来事，事物，言葉は，テキストの特定の箇所内で正確に定義され，位置づけられなければなりません。語っているのはだれか，聞いているのはだれか，言われていることは何かを見つけることは大切です。あなたは，現在読んだり学んだりしている箇所に関連した重要な事柄を出来るだけ多く集

めるべきです。

背景

聖書は常に背景と文脈に照らして解釈しなければなりません。どんな聖句や箇所でも，連絡のない切り離された孤立したテキストとして解釈してはなりません。最も良い聖書の注解書は聖書であることを覚えておくと役に立ちます。これはどういうことかと言うと，しばしば1つの概念が1人の著者によって紹介され，別の著者によって拡大され，さらにもう1人の聖書記者によって完全な意味をもって説明されるということです。思想や教えが矛盾することはありませんが，聖書箇所の文脈を，それが聖書の全体とどのように関連しているかを十分知るために，理解することは大切なことです。聖句の文化的，地理的背景を考慮する必要性はどんなに強調しても強調しすぎることはありません。

常識

聖書を読む際に常識を用いるということは聖書がその言っている通りのことを意味し，ふつうは文字通りに受けとるべきことを理解するということです。しかし，高度に比喩的で詩的な言語もしばしば用いられていることを考慮に入れなければなりません。たとえば，「地の四隅」とか「地の周囲」，「神の足台」としての地は比喩的言語が用いられています。このような言葉は文字通りに理解されるべきではありません。なぜなら，そのように理解されると，聖書は私たちが球形の地球と無限の宇宙について知っていることと大きなへだたりができてしまうからです。聖書は，その主要目的を破るような進歩した科学用語を紹介するよりも，当時の人々がふつう知っている言葉，理解できる言葉を使っていることを忘れてはなりません。

私は何度も聖書を信じない人，聖書が神について言っていることを信じない人と語る機会を得ました。概して反対は真面目な気持からもちあがります。彼

らの知的な疑問と困難を扱ったあとで，私はしばしば，簡単な日常の言葉で，出会いと経験による個人的信仰を言い表わすことができました。ふつう，私が話している相手の方は，「私はこれまでもキリスト教をこんなふうに語ったのを聞いたことがない」とか，「私もあなたが話しているような単純な信仰と信頼を持てればよいのですが」というようなことを言って反応を表わしてくれます。おわかりのように，それは知的な論証ではありません。意志と心，感情と情緒の問題です。信仰とは本を信じることではなく，人格との出会いです。

あなたに対する進言はこういうことです。新約聖書を通読するために必要な時間と労力を惜しまないことです。聖書研究の組織的なスケジュールを立て，それに従うようにして下さい。聖書を読みながらノートがとれるように，鉛筆と紙をそばに置きなさい。あとでもう一度見直したり，友だちと話したりするために，どんな疑問や問題でも，また洞察した点や考えたことを書きとめて下さい。聖書を読みながら，あなたが読んだ内容の深さ，意味，真理があなたの問題と生活に適用されるように，神の御霊の助けを祈り求めなさい。

あなたが注いだどんな努力も時間や労力の無駄にはなっていないのです。最初はどんなに微かな光であっても，暗やみでつまずいてばかりいるより，その光を見るほうがまさっています。あなたの見ている光に近づけば，光があなたに近づくことを知るでしょう。あなたと光が出会えば，それが出会いであり，それはこの本の目的です。使徒ヨハネはイエスについて言いました。「彼のうちに命があった。そしてその命は人の光であった」（ヨハネ１：４）。

挑戦

もし私たちが聖書を信頼できないなら，聖書が私たちに描いているイエスをいかにして知ることができるでしょうか。神はこういう問題が起きるのを知っ

ていました。だから神は，彼の「生ける言葉」（イエス）を世に送られたばかりか，私たちのために彼の「書かれた言葉」（聖書）を真理と正確さをもって保存したのです。今日多くのことが相対的と考えられ，この世に絶対的なものが何一つとして残されていないかに見えるとき，神は信頼できる，神の子と神の言葉は信頼できるということを再び強調する必要があります。神は虚偽の絵，老人のたわごと，流行おくれの人生目標を与えません。

もしあなたがここまで学んできたなら，今語った提言のいくつかをあなたは進んで確めてみると思います。そして，次の問題は，「どこから始めるのか」ということです。

ルイズ・カッセルズは言いました。「もしあなたが聖書を通して語っている神の声を心から聞きたいと願うなら，聖書を読むだけではなく，真剣に組織的に研究する心構えを持たなくてはなりません」（カッセルズ P.33）。

ふつうの本に対する正しいアプローチは，最初から読み始め，読み通すことです。しかしあなたは，聖書が多くの本からなっていることを思い出すでしょう。きっと創世記からではなく，新約聖書から始めれば，聖書は一番よくわかるでしょう。

ルカの福音書から始めることです。そのあとで使徒行伝を読むことです。この2冊は同じ人によって書かれたもので，1つの連続した物語となっています。福音書では，イエス・キリストの生涯を記録しています。キリストの誕生，働き，死，復活です。それは，ユダヤ人でない人によって，ユダヤ人でない聴衆のために書かれました。ルカは医者でした。そして，イエスの生涯の出来事を非常に注意深く記録した人です。彼はまた，細かい重要な点を見る目を持っていました。

使徒行伝では，ルカはイエスの復活と昇天後のキリスト教教会の始まりを記

しています。彼は，エルサレムに始まって古代ローマ帝国の果てに至る，キリスト教のインパクト（影響力）と伝播を追跡しています。彼は特に，使徒パウロの胸のおどるような旅行に注目しています。彼はパウロと一緒に広範囲にわたって旅行しました。

ルカと使徒行伝を読んだあとは，ヨハネの福音書を読むべきです。ヨハネの福音書にはイエスの奇跡も主な出来事もいくつかは出てきますが，ヨハネはイエスの行動とか生涯の出来事よりもイエスの言葉そのものを強調しています。ヨハネはおそらく，最も親しいイエスの個人的友人でしたから，彼の記事は非常に重要です。

次はパウロの手紙を読むべきです。パウロによって書かれた書巻は，宛先の個人名か，教会名がタイトルにつけられています。ロマ書，ガラテヤ書，コリント書は若い教会や新しいクリスチャンを助けて，キリスト教の信仰を当時の問題や状況に適用させるために書かれました。その結果，それらは，キリスト教のすぐれた点をいくつか選び出して私たちの信仰を文化に適用させる上で，今日大いに役立っています。

これまであげた著書を学べば，あなたはきっとイエス・キリストの教えと初代教会の生活をすべて見渡すことができるでしょう。そうすれば，新約聖書の残りは，読みたい順に読むことができるでしょう。でも，黙示録だけは最後に読んで下さい。ヨハネの福音書の記者は，黙示録の著者でもありました。これは黙示文学で，高度に比喩的文体で書かれ，何世紀にもわたって学者たちに研究と議論の材料を提供してきました。これはおもしろい読み物ですが，真っ先に読むべきものではありません。

もちろん，旧約聖書を忘れてはなりません。しかし，新約聖書を読んでから旧約聖書に入れば読み易いでしょう。詩篇から始めてはどうでしょうか。詩篇は世界最大の霊的詩集です。また，箴言もおもしろく読めるでしょう。

それから，イザヤ，エレミヤ，エゼキエルといった預言書の何冊かを読んでみて下さい。そのあとで創世紀と出エジプト記へ行き，神の民の生活と出来事に神が関わったすばらしい記事をたどり始めて下さい。

このように私は聖書を読む順に従って各巻をあげてきましたが，ここにあげなかったものが重要でないというのではありません。また，読む順序を変えてはならないということではありません。もしあなたが他のところに特別に関心をお持ちなら，そこから読み始めて下さい。聖書はすべて有益です。しかし，私たちが提案した背景を知れば，ある箇所は今まで以上に良く味わえるでしょう。

聖書研究には，人の心をつかんで，考えさせ，反省させ，行動させる何かがあります。私同様，これがあなたの発見になりますように。また，他の多くの人の発見になりますように。

引用参考書——第4課

1．Cassels, Louis. *Christian Primer.*（キリスト教の初歩）Garden City, New York, USA: Doubleday and Company, Inc., 1964.

2．Dodd, C. H. *The Authority of the Bible.*（聖書の権威）London, England: Nisbet and Co., Ltd., 1938.

3．Free, Joseph P. *Archaeology and Bible History.*（考古学と聖書の歴史）Wheaton, Illinois, USA: VanKampen Press, 1950.

4．Green, Michael, *Runaway World.*（逃走社会）London, England: Inter-Varsity Press, 1968.

5．Johns, Donald F. *Proofs of Christianity.*（キリスト教の証明）Springfield, Missouri, USA: Gospel Publishing House, 1965.

6．Montgomery, John Warwick, ed. *God's Inerrant Word.*（神の誤りのない言葉）Minneapolis, Minnesota, USA: Bethany Fellowship, Inc., 1974.

7．Mowrer, O. Hobart. *The New Group Therapy.*（新しいグループの精神療法）Princeton, New Jersey, USA: Van Nostrand Company, Inc., 1964.

8．Pache, René. *The Inspiration and Authority of Scripture.*（聖書の霊感と権威）Chicago, Illinois, USA: Moody Press, 1969.

今後の学びのために

Henry, Carl F. H., ed. *Revelation and the Bible.* (啓示と聖書) Grand Rapids, Michigan, USA: Baker Book House, 1958.
この課の主題に大いに関連性のある材料を非常に学問的に編さんしたもの。

Kuitest, H. M. *Do You Understand What You Read?* (あなたは読んでいるものを理解していますか) Grand Rapids, Michigan, USA: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1970.
最初オランダで発行されたこの本は，聖書を読み，解釈する上で有益である。

Montgomery, John Warwick, ed. *God's Inerrant Word.* (神の誤りのない言葉) Minneapolis, Minnesota, USA: Bethany Fellowship, Inc., 1974.
この本はこの課の全体に役立つ。11章はこの課の「聖書の権威」の中に要約されている。

Neil, William. *The Rediscovery of the Bible.* (聖書の再発見) London, England: Hodder and Stoughton, 1965.
1—13章が特にこの課に関連している。小さなサイズなので，手軽な参考書となっている。

Pache, René. *The Inspiration and Authority of Scripture.* (聖書の霊感と権威) Chicago, Illinois, USA: Moody Press, 1969.
フランス人によって書かれたこの本は，実際的，学問的方法で聖書を論じている。個人的研究を一歩進める上で有益である。

Tenney, Merrill C., ed. *The Bible–The Living Word of Revelation.* (聖書——生

きた啓示の言葉）Grand Rapids, Michigan, USA: Zondervan Publishing House, 1970.

10名の指導的新約学者による10章からなる本は，この課の主題に関係していて役立つ。

自　習

1　使徒行伝1：1—5を読みなさい。イエス・キリストについて著者ルカが何を私たちに語っているか，短く書きなさい。

……

……

2　福音記者ヨハネは，読者がイエスは神の子であると信じるために，イエスによって行なわれた「しるし」や奇跡のいくつかを記録したと言っています（ヨハネ20：30，31）。この福音書の2，3のしるしを見て，それらがどのようにしてイエスの神性を信じる信仰に導いたかを書きなさい。

a）……

……

b）……

……

c）……

……

3　あなたは第2テモテ3：16，17をよく読んでから，聖書の全体的目的について何を学びますか。

……

……

……

4　ヘブル1：1—4，第1ペテロ1：10—12，第1ヨハネ1：1—4を読みなさい。これらの箇所を読んでから，「生きた言葉」（イエス）と「書かれた言葉」（聖書）との関係について，あなたの総体的印象を書き出しなさい。

……

……

……

5　この章の最後のところであげたいくつかの提案に従って，あなたは聖書を進んで研究しようとしていますか。もしそうなら，以下にあげた書巻の中から，あなたが読んで研究したいと思うものを3つ選んで，左枠に読みたい順に番号をつけて下さい。

……ルカ／使徒行伝

……ヨハネ

……ロマ書／ガラテヤ書

……第1，第2コリント書

……詩篇

……イザヤ／エレミヤ

……創世記

……他の書巻……

自習ガイドライン

1　ルカの福音書はイエスが言われたこと，行なわれたことのほんの始まりにすぎません。彼は自身の生きていることを数多くの証拠で示しました。彼は40日間地上に現われました。彼は神の国について語りました。彼は聖霊の約束を何度もくり返しました。彼は弟子たちに指示を与えてから，天に昇りました（「上にあげられました」）。

2　以下の例を含むことができる。

1）ヨハネ２：１-11――自然要素の超自然的支配
2）ヨハネ４：７-30――人間の状況の超自然的知識
3）ヨハネ５：２-９――いやしの超自然的能力
4）ヨハネ６：１-14――自然要素の超自然的支配
5）ヨハネ９：１-17――いやしの超自然的能力
6）ヨハネ11：１-44――死者に命を回復させる超自然的能力
7）ヨハネ13：21-30――人間の意図を知る超自然的能力

3　それは教え，訓戒，矯正，訓練のためである。それによって神の人が完全となり備えられて弟子の生涯を歩むためである。

4　ヘブル１：１-４――御子（神の像であるおかた）は神が語る究極的方法である。旧約聖書は神が語った他の方法を記録しているにもかかわらずである。

第１ペテロ１：10-12――御子は聖書の預言の成就である。

第１ヨハネ１：１-４――記録された言葉は，生きた言葉である御子との交わりに入るための手段である。

5　私は，まずルカ／使徒行伝，ヨハネを選び，次にロマ書／ガラテヤ書か第1，第2コリント書を選びます。

自己採点復習

1　聖書は深い統一感を持っている。ふつうは統一からはずれると思われる以下の項目のうち，どれが聖書に出ているでしょうか。適当な項目を○で囲みなさい。

a）神が息を吹き込まれた
b）主題の多様性
c）誇張と神話
d）文体の多様性
e）著者の合作
f）時間と空間の広がり
g）多くの著者
h）いくつかの言葉を用いていること

思考の刺激：あなたはきっと，編集者によって決められた中心テーマをもった詩歌集か教文集を読んだことでしょう。聖書の統一性とくらべて，この統一性をあなたはどう考えますか。

2　以下のうち，どれが聖書は正確であり，困難性は実際は少ないことを確証していますか。正しい文に○をつけなさい。

a）歴史的不正確
b）心理学の発見
c）本文批評
d）考古学的発見
e）表面的調査
f）永続的同一性
g）外見的矛盾
h）原語理解の進歩

思考の刺激：あなたはホーマーの叙事詩のような作品を読む前後に，本文の問題や解釈の小さい点を調べますか。聖書だけを別に取り扱うのは公平な扱いですか。

3　聖書の権威を確立するための方法と各々に用いられた議論とを組み合わせなさい。空白に右側の項目から適当なものを選んでその番号を書きこみなさい。

.....a 聖書はそれ自体の無謬性を断言する	1）告白的
.....b 聖書は信頼しうる	2）前提的
.....c 私たちは聖書が神の言葉であることを信じる	3）古典的
.....d 聖書は自己証言する	
.....e イエスは聖書を神の言葉として教えた	

思考の刺激：あなたは今，日記と手紙集を見つけたとしましょう。それらはあなたの祖父が書いたと思う場合，それをどうやって確かめますか。これらのテストのどれだけが聖書の真正性と権威を確立するのに適用できますか。

4　聖書解釈に関連した以下の活動をA（正確），B（背景），C（常識）で確認しなさい。空白にA，B，Cのどれかを書きこみなさい。

.....a）欄外註を用いて思想をたどる
.....b）地図を用いて町の位置を定める
.....c）当時使われた言葉の意味を理解する
.....d）コンコルダンス（語句辞典）を使って言葉をしらべる
.....e）聖書辞典で名前をしらべる
.....f）絵文字がいつ用いられたかを見る
.....g）むずかしい聖句を註解書で調べる

……h）国の歴史と習慣について百科辞典を用いて情報を得る

思考の刺激：車を買うときは，メーカーのハンドブックを受けとる。もし聖書が人間生活に対する神のハンドブックであるなら，それを組織的に研究する価値がありますか。

5　どのように聖書を学ぶべきですか。最も適当と思われる方法を選び，○で囲みなさい。

a）1週間のうちに創世記から黙示録までを読む
b）組織的に知的に学ぶ
c）聖書にあなた自身の見解をおしつけようとする
d）読みながら神の助けを祈り求める
e）最初ルカによる書巻を読む
f）講義中に読む
g）聖書があなたの考えと生活に影響を与えるようにさせる

思考の刺激：このようにあげられた方法で聖書を読み始めることを妨げる主な障害は，どのようなものであると見ていますか。

自己採点復習解答

1 b), d), f), g), h)

2 b), c), d), f), h)

3 a 2), b 3), c 1), d 2), e 3)

4 a) B
b) A
c) C
d) AとB
e) AとB
f) C
g) BとC
h) AとB

5 b), d), e), g)

a　ある学者は，カインは彼の妹と結婚したが，当時人間の数が地上に少なかったので近親相姦は罪にならなかったと信じている（創世記４：17)。くじらに関しては，テキストは「くじら」ではなく「大いなる魚」と言っている（ヨナ書１：17)。マタイ12：40に用いられてＲＳＶ（改訳聖書）で「くじら」と訳されているギリシャ語は，「海の怪獣」と「大きな魚」という意味をもった，どちらにもとれる言葉である。今日生存しているある種のサメは人間を丸のみできる。

b　モーレーは，イエスがパリサイ人の偽善性を非難したルカ12：１―４に言及している。大群集が聞くために集まった。その時イエスはふりむいて弟子たちに語った。これらの４つの聖句は彼らに対する彼の言葉の１部である。

c　この項の大部分は，ジョン・Ａ・モンゴメリーの「神の誤りのない言葉」11章から要約した。

d　Ｃ・Ｈ・ドッド（1884-1973）は1901年にオックスフォードを卒業した。彼は生涯を新約聖書研究と教えに捧げた。彼は20冊以上の本を書いた。

e　モンゴメリーはケーラーの「いわゆる歴史的イエスと歴史的聖書的キリスト」から引用した。

f　たとえば，ルカ１：１―４と使徒１：１―５とを比較せよ。テオピロに対する重要な出来事の連続性に注意されたい。